

## 2004 年度 委員会活動成果報告

( 2 0 0 5 年 2 月 1 8 日作成 )

委員会名	市民講座 WG	主 査 名：林康裕
所属本委員会 (所属運営委員会)	災害委員会	委員長名：小谷俊介
設 置 期 間	2004 年 7 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築学会には単に学会員にとどまらず、広く一般市民に対して建築学会が蓄積した災害に関する知識を伝えることが求められており、災害委員会下に本 WG を設置して、災害に関する知識を一般市民へ伝えるためのシンポジウム・市民講座などを企画する。	
委員構成 (委員名(所属))	林 康裕(主査：京都大学)、渡辺 千明(幹事：秋田県立大学)、難波 尚(幹事：神戸大学)、牧 紀男(幹事：防災科学技術研究所)以下、支部代表：戸松 誠(北海道立北方建築総合研究所)、田中 礼治(東北工業大学)、花里 利一(大成建設(株))、田守 伸一郎(信州大学)、佐藤 篤司(名古屋工業大学)、大谷 恭弘(神戸大学)、三浦 賢治(広島大学)、松島 学(香川大学)、崎野 健治(九州大学)	
設置 WG	なし	
2003 年度予算	なし	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004 年 8 月 30 日；主査・幹事にてキックオフミーティング、その後、頻繁なメール審議、幹事団による数回のミーティングを経て、2005 年 2 月 4 日に、支部推薦 WG 委員の出席の下、今後の活動方針について審議した。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>わが国は今後数十年の内に南海トラフの地震をはじめとする大地震に必ず見舞われることが予想され、この来るべき地震に備えるためには、都市の耐震改修をはじめとする防災対策の促進を行い、災害に関する知識を市民と共有しておくことが有効かつ重要である。</p> <p>この視点を重視し、2005 年度から 3 年間のシリーズで行う予定の市民講座(支部主催(横浜会場)、支部提案(2 3 会場))の開催方針案・プログラム案を作成した。本部主催の市民講座では、3 年をシリーズ化した体系的な講座とし、最終年度にその内容を出版することを目指す。一方、支部提案の市民講座は、通常の支部活動では実施が困難な大都市以外の地域についても、市民との情報共有が可能となる様な講座とすべく、支部提案を行ってもらうべく、募集要項と支部提案申請用紙を作成して、支部代表委員に説明を行った。</p> <p>委員会 HP アドレス： なし</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 災害に備えた一般市民との情報共有を目指した市民講座開催に向けた準備を終えたており、当初目標を達成した。
その他評価すべき事項	建築学会で震災 10 周年シンポジウム(市民向け)「どう活かす地震の教訓 - 地震防災総合研究 10 年に学ぶ - 」(神戸会場)の司会・記録を、当 WG 主査・幹事で担当した。